

第2章

藤原宮・京・飛鳥地域出土の植物種実

I 藤原宮・京跡出土の植物種実

1. 藤原宮・京跡植物種実出土遺構の概要

藤原京は、持統8年(694)に建設された日本初の本格的都城である。その中心には、天皇の居所である内裏や儀式や政治の場である大極殿や朝堂、役所群等のある藤原宮が置かれた。

この藤原宮・京跡においては、便所遺構、井戸、土坑のほか、溝状遺構(運河含む)や沼状遺構から植物種実が出土している。その位置は第3図に示した。出土数量は、後述する飛鳥地域の石神遺跡や次章の平城宮・京に比べると少ない。しかし、便所遺構や時期が絞り込める井戸、土坑などで、植物種実が少なからず確認されている。また、藤原宮朝堂院地区の運河遺構では、豊富な植物種実が得られている。便所遺構SX7420を除き、大型の植物種実が目立ち、小型種実が見られないのは、2mmよりも目の細かい篩を使用した調査がおこなわれていないためと考えられる。

2. 便所遺構・井戸・土坑

a. 藤原京右京七条一坊

SX7420 西北坪で見つかった便所遺構。長さ1.6m、幅0.5mの長楕円形を呈する素掘りの土坑で、長軸を南北方向に置く。深さは現状で0.4mをとどめるが、周辺の柱穴等の遺存状況からすると、本来は1m前後の深さをもつと考えられる。内部には粒子の細かい黒色土が詰まっており、木簡や板状木製品、ウリの種子が堆積していた。7世紀後半。

出土した植物種実は、数量は不明ながら報文(黒崎編1992)によると次のようなものがある。クワ種子、キイチゴ属核、サンショウ種子、ブドウ属種子、ナス属種子、シソ属種子、アサ種子、メロン仲間種子など食用植物が含まれる。またこのほかにも、雑草が含まれており、アカザ属、カタバミ、ナデシコ科のような乾燥した人里を好む種類と、ホタルイ属、イボクサ、ギシギシなど溝や水性環境に生育する種類がある(第2表)。

b. 藤原宮西方官衙地区

SE8431 西方官衙地区における区画B東辺の塀の内側に位置する。掘方は深さ約1.8mで、開口部の直径は約2.4m。上から約1mのところで一辺約1.5m前後の方形となる。横板組の井戸枠を残す。井戸枠内埋土からは、飛鳥Ⅳの土器のほか、星座「羅堰九星」を描いた呪符木簡が出土した。井戸の埋土は均質で、一気に埋め戻されたと考えられる。7世紀後半。

植物種実として、モモ核が、掘方と埋土でそれぞれ1点(破片3点)、8点出土している(第2表)。

SK8471 西方官衙地区の区画B外にある南北棟掘立柱建物SB8460の西南に位置する土坑。直径4.6m、深さ1.3mのすり鉢状である。多量の土器(飛鳥Ⅳ)とともに、木簡や木製品が出土した。7世紀後半。

複数の層位に区分されているが、植物種実の構成は類似している。最も出土数が豊富な青灰粘土層をみると、ヒョウタン仲間種子が250点と最も多く、次いでモモ核71点(破片92点)、そしてナツメ核8点(破片3点)、スモモ類核5点と続く。このほかカヤ種子とオニグルミ核の破片が少量出土している(第2表)。

c. 藤原京左京七条二坊

SE275 東南坪の中央やや南寄りに位置する井戸。東西2.3m、南北2mの楕円形の掘方を掘り、中に横板蒸籠組の井戸枠を据えている。井戸枠は内法幅約45cm。井戸枠内からは飛鳥Ⅴの土器が出土している。7世紀後半～8世紀初頭。

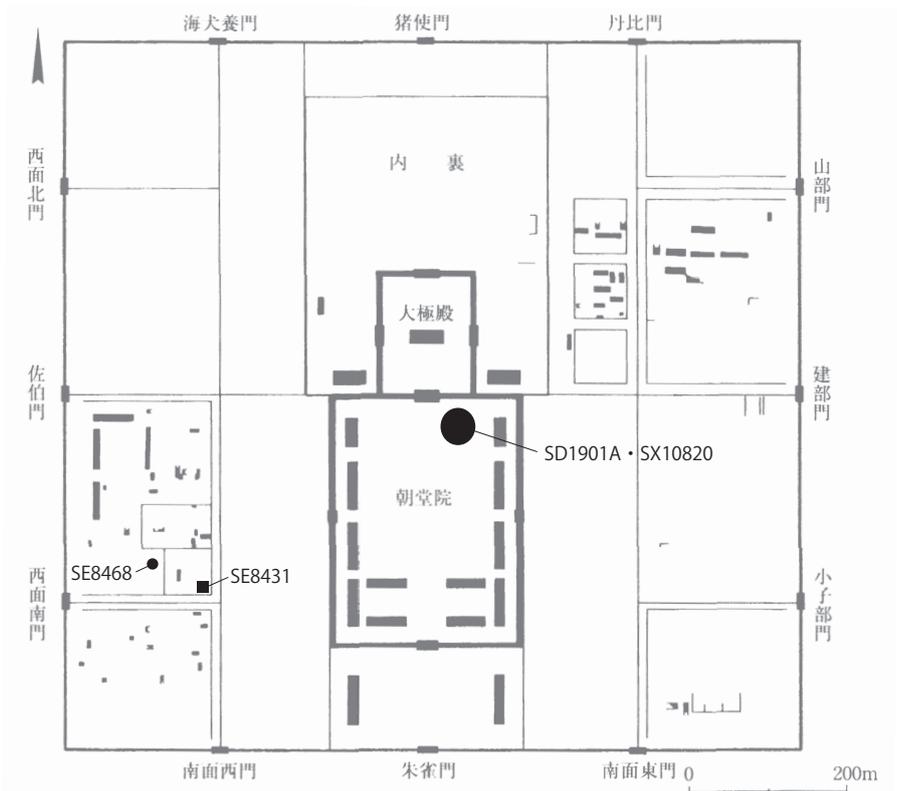
植物種実として、モモ核8点が出土している(第2表)。

3. 溝状遺構・運河など

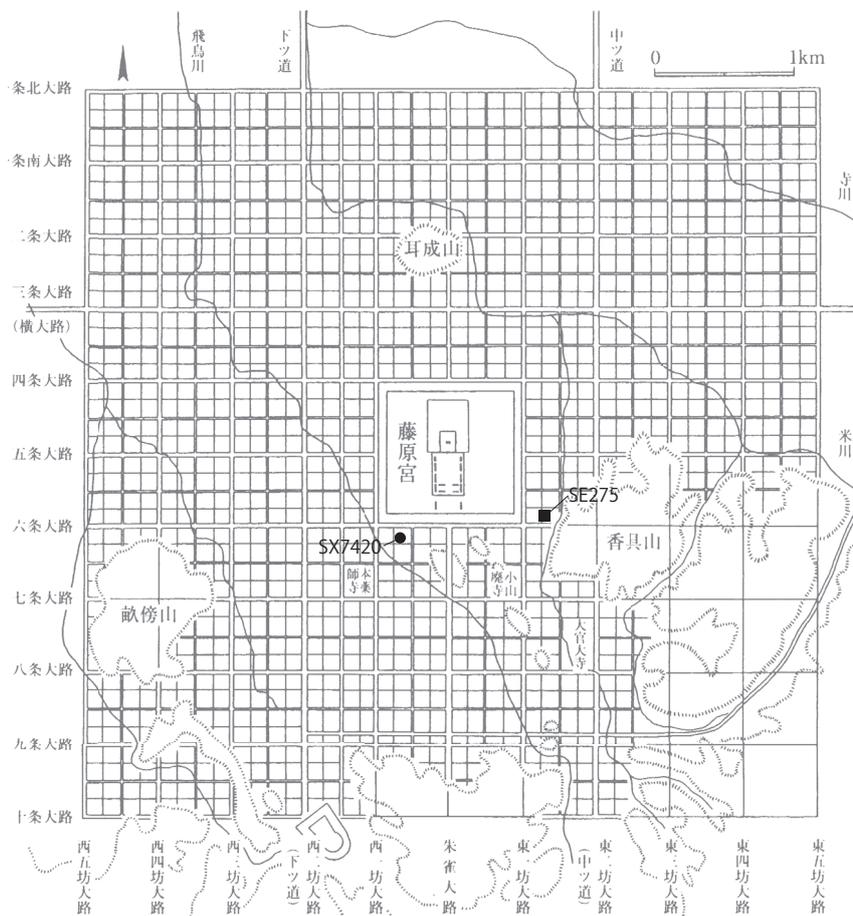
a. 藤原宮朝堂院地区

SD1901A 朝堂院地区を南北に貫流する運河。第一次整地である暗褐色粘土から掘りこんでおり、幅は約3～4mで、深さは2mを測る。埋土は下から機能時の堆積を示す粗砂層、細砂層、埋め立て時の青灰色粘土層である。粗砂層や細砂層には土器や動物骨、木器などを多く含む。埋め立てに際しては、斜行溝SD10801Aの底と同じ高さまで埋めた後、瓦を一括投棄し、さらに青灰色粘土で一気に埋めている。藤原宮造営期(7世紀後半)。

植物種実は、2度の調査(153次・169次)で出土している。両調査での種実の構成はよく類似している。粗砂層(153次)で最も多いのは、メロン仲間種子で、384点(破片300点)、次いでブドウ属28点(破片30点)、ヒョウタン仲間種子8点、サンショウ種子5点(破片3点)、カキノキ種子3点(破片1点)、ナツメ核2点などと続く。169



藤原宮



藤原京

第3図 藤原宮・京跡における調査対象遺構の位置 (図は小澤 1997 より)

第2表 藤原宮・京跡出土の植物種実

分類群	部位	SX7420	SE275	SE8431			SK8471				SD1901A			SX10820	
			枠内	埋土	掘方	炭化物層		青灰粘土		青灰粘土2		粗砂	青灰粗砂	淡青灰粘土下面	13層
木本															
カヤ	種子							1		1					7
ヤマモモ	核											1			4
オニグルミ	核						2		5						
クリ	果皮											1	7		
モモ	核		8	8	1	3	69	25	71	92	5	4			
スモモ類	核						3		5						
ムベ	種子											1			
キイチゴ属	核														
ナツメ	核						1		8	3	1				
カキノキ	種子											2			
クワ属	種子											3	11		
クワ	種子	○													
コナラ属	堅果											2		3	8
コナラ属	炭化子葉														5
コナラ属	殻斗											3			
マメ科	種子														1
サンショウ	種子	○										5	3	4	
ブドウ属	種子	○										28	30	72	50
ノブドウ	種子	○													1
ミズキ	核											1			
トチノキ	種子														1
草本															
イネ	穎											1			
ナス属	種子	○										13			
メロン仲間	種子	○										384	300	291	432
ヒョウタン仲間	種子					8		250		14		8		3	1
ヒョウタン仲間	果皮														10
シソ属	果実	○													2
ヤブツルアズキ	種子													1	
タデ科	果実	○										1		369	95
ギンギン	果実	○													
ホタルイ属	果実	○													
カタバミ	種子	○													
アカザ属	種子	○													
キンボウゲ属	果実	○													
ナデシコ科	種子	○													
キク科?	果実	○													
タカサブロウ	果実	○													
アサ	種子	○													
カヤツリグサ属	果実	○													
イボクサ	種子	○													
キケマン属	種子													61	59
不明・同定不能												9		20	13

次の青灰粗砂層では、タデ科果実が369点と多いが、次に多いのはメロン仲間種子で291点（破片432点）、そしてブドウ属種子72点（破片50点）と続く。このほか、キケマン属種子61点、ナス属種子13点、サンショウ種子が4点、ヤマモモ核、クリ果皮、ムベ種子、クワ属種子、ヤブツルアズキ種子も1点ずつ出土している（第2表）。

SX10820 朝堂院東北隅に掘削された沼状遺構。第一次整地土を掘り込んでおり、第二次整地土によって埋め立てられている。南北長は約50m、東西は現状では不明。深さは一部では70cmだが、それ以上になるものと考えられる。SX10820は、まず青灰色粘土によって15～20cmほど埋まり、その後一気に埋め立てられている。青灰色粘土は自然堆積と考えられるが、これより上位の埋め立て土からは土器（飛鳥Ⅰ～Ⅲ）、瓦、木製品（木屑含む）が出土した。7世紀中ごろから後半。

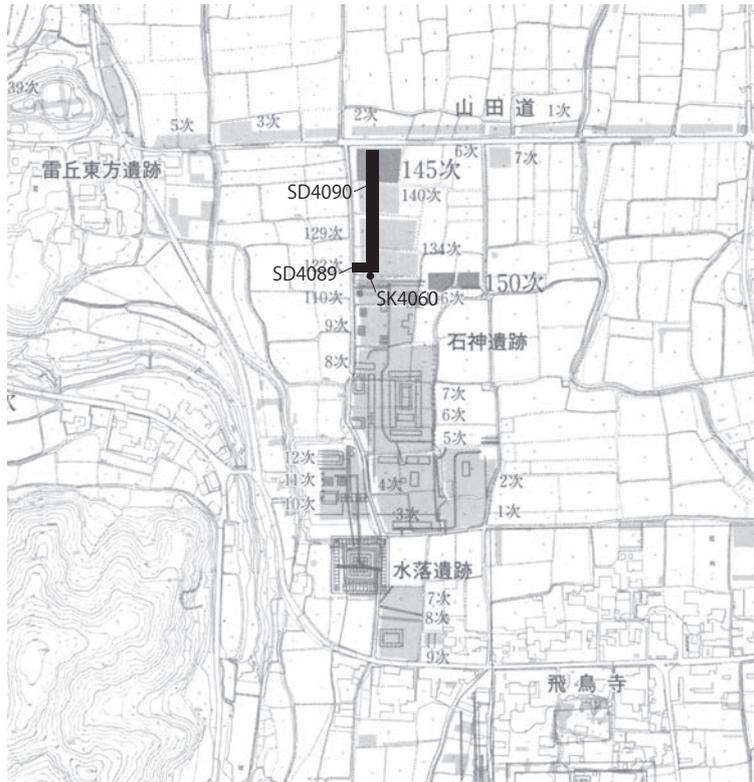
植物種実の出土数は多くはない。13層ではヒョウタン仲間種子が6点（破片2点）、メロン仲間種子が5点（破片6点）、ヤマモモ核が4点出土している。このほかにかヤ種子、コナラ属堅果の破片がある。15層では、ヒョウタン仲間種子がわずかに出土している（第2表）。

このほか、藤原宮朝堂院東第二堂北半部の溜まり部から、キイチゴ属核66点、ホタルイ属種子6点が出土している（第5・6図）。

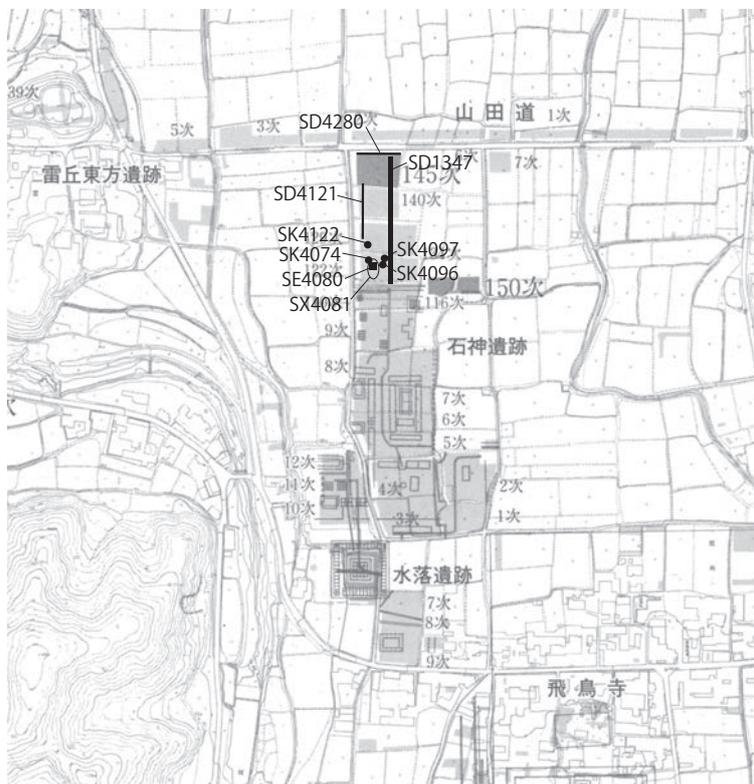
Ⅱ 飛鳥地域の遺跡—石神遺跡—

1. 石神遺跡における植物種実出土遺構の概要

石神遺跡は飛鳥寺西北に隣接する遺跡で、中枢部では、7世紀代を中心とした建物や広場、井戸、溝などが計画的に配置されていたことが分かっている。最盛期は斉明朝のころで、『日本書紀』にみえる饗宴施設と考えられている。本節で対象とするのは、石神遺跡でも北方の種実出土遺構である（第4図）。この付近には、建物等の施設はほとん



石神B期



石神B～C期

第4図 石神遺跡における調査対象遺構の位置（下図は奈文研 2008 より）

第3表 石神遺跡出土の植物種実（1）

分類群	部位	SE4080	SK4060	SK4096	SK4097	SX4122	SX4074	SX4081											
								1層	2層	採取	一括								
木本																			
カヤ	種子					1													
イヌガヤ	種子				2														
オニグルミ	核			2		2	1												
ハンバミ	堅果					2													
クリ	果皮		○	1	35	100<	2												
モモ	核	10	8	7	7	180	205	283	439	293	737	1	2	8	3	1	1	2	5
スモモ類	核			4	2	26	2	57	23	23	2								
サクラ属	核					1													
センダン	核					1													
ナツメ	核	1		2	4	7	1	18	2	18									
カキノキ	種子			1				13	2										
クワ属	種子							1											
アカマツ	球果					1													
コナラ属	堅果			12		1		2		2									
コナラ属	殻斗					2													
アカガシ亜属	果実+殻斗					2													
アカガシ亜属	幼果					1													
マメ科	種子					1													
サンショウ	種子					1		2											
アカメガシワ	種子					1													
ブドウ属	種子							1											
トチノキ	種子					1	2												
草本																			
トウガン	種子							32	5										
メロン仲間	種子	73	13	320	130	192	35	434	297										
キカラスウリ	種子					1	1												
ヒョウタン仲間	種子	4				95	26	22	8										
カナムグラ	種子					4													
キク科?	?						○												
不明・同定不能						9		3	3										

どなく、溝や土坑で構成されている。しかし、中枢施設群と期を一にした遺構変遷が認められ、両者が関連していることを示している（奈文研 2008）。植物種実は、井戸や土坑、そして溝状遺構から多数出土している。特に後者からの出土量は、飛鳥、藤原地域で最も多い。ここで調査対象とした遺構の年代は、ほぼ7世紀後半に限られており、当該期の植物利用や植生復元に重要な資料と考えられる。ただし、藤原宮・京と同様に、2mmよりも目の細かい篩を使用した調査がおこなわれていないため、相対的に大型の種実が目立つ。なお、本遺跡出土の種実写真を第5・6図に示した。以下、個別にみていく。

2. 井戸・土坑等

SE4080 石敷 SX4081 の中にある井戸。石敷とは一連の遺構である。直径1 m、深さ約1.2 mで20～60cm大の自然石を4～5段組み上げている。底部には5～10cm大の玉石を敷く。埋土は上から暗褐色粘土、石組と同様の石を含む灰色泥土、挿鉢状にたまった青白色砂と灰色粘土、臼状に厚く堆積した灰色砂、最下層の薄い灰色粗砂という順である。堆積状況からみて灰色砂を一度浚渫している。

植物種実として、メロン仲間種子73点（破片13点）、モモ核10点（破片8点）、ヒョウタン仲間種子4点、ナツメ核1点が出土している（第3表）。

SK4060 上層整地にともなう土坑。東西2 m以上、南北11 mの溝状を呈し、深さ0.3 m。北側をSD4089に切られている。

植物種実は、メロン仲間種子320点（破片130点）と最も多く、次いでモモ核7点（破片7点）、スモモ類核4点（破片2点）、ナツメ核2点（破片4点）、カキノキ種子1点と続く。このほか、コナラ属堅果破片、クリ果皮が出土している（第3表）。

SK4096 南北溝 SD4090 の堆積土を切り、C期の石敷 SX4081 と整地土に覆われている土坑。木屑を多量に含む。B期廃絶～C期造営に伴う廃棄土坑であろう。この土坑は、厳密にはSD4090と掘り分けられておらず、一部はSD4090に帰属する可能性がある。

出土植物種実として最も多いのは、メロン仲間種子で193点（破片36点）、次いでモモ核が180点（破片205点）、ヒョウタン仲間種子95点（破片26点）、スモモ類核26点（破片2点）である。このほかに、ナツメ核、コナラ属堅果、クリ果皮、サクラ属核、サンショウ種子、トチノキ種子、キカラスウリ種子、カナムグラ種子、オニグルミ核（破片）などが出土している（第3表）。

SK4097 B期の溝 SD4090 の堆積土を切り、C期の整地土に覆われている土坑。埋土に檜皮が多く含まれている。出土植物種実の構成は、SK4096と類似している。最も多いのはやはりメロン仲間種子で434点（破片297点）、

第5表 石神遺跡出土の植物種実（3）

分類群	部位	SD1347 (122次)													
		1層	2層	3層	4層	5層	下層木屑	黒灰砂	砂層	砂溝2	西流	一括			
木本															
オニグルミ	核									1				2	
ハシバミ	果皮														
クリ	核					12	8			26	32			46	24
モモ	核	19	8	7	7	3	1	12	8	10	4	26	32	67	28
スモモ類	核					6	2	5		17				6	1
サクラ属	核													13	6
センダン	核													49	64
ナツメ	核													15	5
コナラ属	堅果							2		5	2			1	7
														11	
															4
															1
草本															
メロン仲間	種子			5	10<	110	20	21	23	130	31	13	9		
ヒョウタン仲間	種子							1		18	1				
シソ属	果実									1					

分類群	部位	SD1347 (129次)													
		2層	暗灰粘土	暗灰微砂	黒灰粘土	灰色砂	灰茶粘土	灰茶砂粘	青灰褐砂粘	炭1	木屑1	木屑2	木屑3	その他	
木本															
オニグルミ	核		1												
クリ	果皮				2										
モモ	核	47	36	8	9	73	70	14	15	7	4	1	4	11	10
スモモ類	核					20	2	1		1					
ムクロジ	核					1									
ナツメ	核					12									

分類群	部位	SD1347 (140次)					SD4121	SD4280
		暗灰粘土	暗褐土	灰砂	黒灰粘土	黒褐粘土		
木本								
カヤ	種子						1	
ヤマモモ	核					2	1	
オニグルミ	核						1	
ハシバミ	果実						1	
クリ	果皮					20<	310<	
モモ	核	40	184	59	53	18	11	
スモモ類	核	21	2	20	1	3	2	
ナツメ	核					45	6	
カキノキ	種子	1		3		8		
マツ属	球果						2	
コナラ属	堅果						7	
マメ科	種子						1	
サンショウ	種子						5	
ミズキ	核						20	
クマノミズキ	核						2	
草本								
トウガン	種子						1	
メロン仲間	種子						1	
ヒョウタン仲間	種子						427	
不明・同定不能						1	215	

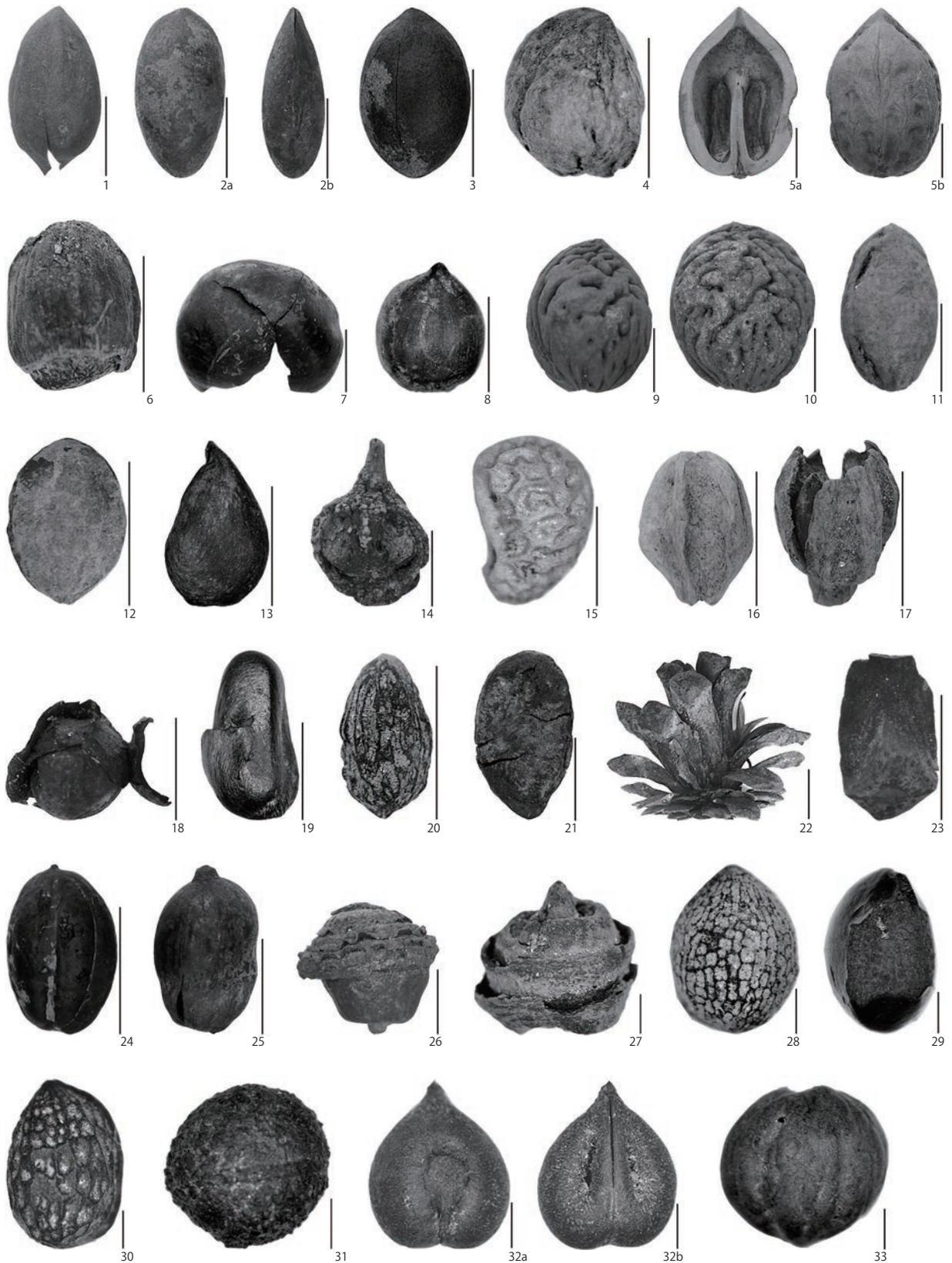
に広がっている。埋土は上から炭混灰色粘質土、有機質層、暗灰色粘質シルト層、灰色粗砂と灰色シルトの混じった層などの堆積土となる（122次）。溝の東南部では、暗茶灰色粘土より上位の堆積土から、持続6年（692）を示す木簡が出土した。この堆積土は溝の埋立土よりも下位であるため、この年には機能していたことがわかる。

植物種実は、129次調査では、メロン仲間種子が最も多く、179点（破片182点）出土している。次いでモモ核が90点（破片177点）、スモモ核59点（破片14点）、ナツメ核37点（破片2点）、ヒョウタン仲間種子が16点（破片7点）と続く。これはSD4089とも共通した様相である。しかし、140次調査ではメロン仲間種子は回収されておらず、最も多いのはモモ核、次いでスモモ類核となる。122次調査では、巨大土坑として遺物を取り上げられており、一部SD4089と重複している。やはりここでも、メロン仲間種子が最も多く、モモ核、スモモ類核がそれに次いでおり、他層位と類似した様相と考えられる。その他にも、ナシ亜科種子1点、ムベ種子1点などが出土している（第4表）。

SD1347 幅3.8m、最大深0.55mの南北溝。暗灰色粘土・黒灰色粘土の堆積するSD1347Aと灰色の粗粒砂が堆積するSD1347Bに区分できる。前者からは木簡、木製品、土器等が出土した。木簡の年代からSD1347AをB期に、SD1347Bをそれ以降と考える。

植物種実は、SD1347Aの下層木屑層から多く出土している。最も多いのは、メロン仲間種子で130点（破片31点）、次いでモモ核26点（破片32点）、ヒョウタン仲間種子18点（破片1点）、スモモ類核17点、ナツメ核5点（破片5点）などと続く。その他の層位では一部を除いて、モモ核が主体となり、スモモ類核、ナツメ核がこれに次ぐという構成である。まれに、オニグルミ核（破片）、ハシバミ堅果、クリ果皮、サクラ属核、センダン核、ムクロジ核などが認められるが、いずれも少量である（第5表）。

SD4121 129・140次調査区西辺に掘られた幅約2m、深さ10～20cmの浅い素掘りの南北溝。石敷SX4114付



スケール 10mm : 1-3,5-7,9-12,14,16-18,20,22-26 5mm : 4,8,13,19,21 1mm : 15,27-33

1. カヤ種子、2. イヌガヤ種子、3. ハイイヌガヤ種子、4. ヤマモモ核、5. オニグルミ核、6. ハシバミ堅果、7. クリ果皮、8. ツブラジイ堅果、9-10. モモ核、11. スモモ核、12. サクラ属サクラ節核、13. ナシ亜科種子、14. ナシ亜科果実、15. キイチゴ属核、16-17. センダン核、18. ムクロジ核、19. ムベ種子、20. ナツメ核、21. カキノキ種子、22. アカマツ球果、23. アカマツ種鱗、24. イチイガシ炭化石子葉、25. アカガシ亜属堅果、26. アカガシ亜属殻斗付堅果、27. アカガシ亜属幼果、28. サンショウ種子、29. サンショウ果皮付種子、30. イヌザンショウ種子、31. アカメガシワ種子、32. ブドウ属種子、33. ミズキ核

第5図 石神遺跡から出土した大型植物遺体（1）



スケール 10mm : 37,42,46,47, 5mm : 38,39,41,43-45,49,51 1mm : 34,35,40,48,50,

34. クマノミズキ核、35. クサギ核、36. トチノキ果皮、37. トチノキ種皮、38. トチノキ果皮 (小型)、39. トチノキ種皮 (小型)、40. イネ皮付穎果、41. オオムギ炭化皮付穎果、42. トウガン種子、43. メロン仲間種子 (ザッソウメロン型)、44. メロン仲間種子 (マクワ・シロウリ型)、45. メロン仲間種子 (モルディカ型)、46. キカラスウリ種子、47. ヒョウタン種子、48. ホタルイ属種子、49. オナモミ果実、50. カナムグラ種子、51. トウゴマ種子

第6図 石神遺跡から出土した大型植物遺体 (2)

近を南限に認識できなくなる。大量の木屑とともに木簡やその削り屑も出土した。流水により砂層などが確認できなかったため、C期への造成工事の工程で排水用の溝を掘り、それを木屑等で埋め、さらにその上に後半に木屑等を廃棄したものと考えられる。

豊富な植物種実が得られている。最も多いのはモモ核で489点(破片692点)、次いでメロン仲間種子が427点(破片215点)、ヒョウタン仲間種子96点(破片70点)、スモモ類核77点(破片9点)、サンショウ種子37点(破片8点)、ナツメ核27点(破片2点)と続く。このほかはいずれも10点未満であるが、カヤ種子、ヤマモモ核、カキノキ核、ミズキ核、クマノミズキ種子、トウガン種子などが出土している(第5表)。

SD4280 阿倍山田道の可能性があるSF2607の南側溝と考えられる。幅1.3～2.5m、深さ0.2m。長さ33m分を検出した。埋土は灰色粗砂で飛鳥Vの土器を多く含む。

植物種実としては、モモ核が最も多く290点(破片123点)、このほかオニグルミ核、クリ果皮などが少量出土している(第5表)。

このほかに、時期が不明確な遺構等からイヌザンショウ種子、オナモミ果実、オオムギ穎果(炭化)が出土している(第5・6図)。